

# 万葉のまち 市辺

*Ichinobe Machizukuri*

第8号

平成 21 年 1 月

発行：市辺地区まちづくり協議会／東近江市市辺町 2391 市辺コミュニティセンター内

【まち協事務局 IP 電話】050-5802-3392 【編集 IP 電話】050-5801-0203

“このまちで心豊かに住み続けたい” と思える まちづくりをめざして！



## “まち協” 2009年のスタート！

### “万葉のまち 市辺” 何かおもしろいことやってみたいな

皆様あけましておめでとうございます。さて、昨年は米国のサブプライムローンに端を発した金融破綻等により、後半からの世界同時不況が日本にも直撃し、特に製造業では派遣社員への雇用契約の不履行が、大きな社会問題となっています。このような状況下、新年を迎えさらに身の引き締まる思いを新たにされた方も多いことと思います。

平成20年度の市辺まち協は、3大事業を始め『生ごみの堆肥化』の実験をスタートしました。特に3大事業につきましては、皆様方のご協力のもと、盛況のうちに終えられたこと、ありがとうございました。小雨に濡れた運動会も体協の皆様へのテキパキとした進行で順調に進み、力の入った競技が繰り広げられました。秋祭りも、空を見上げ雨を心配しての開催でしたが、楽しいステージを見せていただけました。自治会を主体としたバザーも、たくさん出店していただき、盛況のうちにほとんど完売できよかったと思います。老若男女、市辺地区の人々が楽しいイベントのひと時を過ごせた事は意義のある事だと思います。

市辺地区まちづくり協議会も、2年目のほとんどが終わり、これから「市辺地区まちづくり計画」の策定に取り組んでいきます。市辺地区で“出来そうなこと”“しなければならないこと”をリストアップして、大勢のスタッフに参加していただけるような企画を立案していきたいと思えます。まちづくりは、誰かがつくってくれるものでなく、一人ひとりが持っている特技や趣味とかを生かしてつくり上げていくものです。皆様方のご協力をお願いします。また、皆様方の思いやご意見をまち協にお寄せいただければ幸いです。2009年 まちづくりの原点に戻ってがんばりましょう。

市辺地区まちづくり協議会 会長 平尾 徳雄



▲ 年始の準備、しめ縄づくり 東市辺



▲ 秋まつり 市辺幼稚園児の合唱

# 東近江市内まちづくり協議会交流会に参加 「まち協は 地域コミュニティを再生する。」



## 基調講演 中川幾郎先生から応援メッセージ

まち協には、地域自治に貢献しようという意思を持つホンモノの「市民」づくりの学校としての役割が求められています。これは、自分たちの身の回りからこの国をつくり変えて行くという、言わば足元からの改革です。そして、コミュニティを本来の地域共同社会（声と名前と顔が分かっているという面識社会）に戻す活動でもあり、戦後、分野別・世代別に奪われた機能を取り戻す活動でもあります。

まち協は、地域の協働社会であるコミュニティを再総合（再生）する「エンジン」です。ですから、自治会長などの方々を機関人材としつつ、子ども会・女性会・青年団のような世代別団体、社会福祉協議会や防犯協議会などの分野別団体など何もかもがもう一度元に戻って一堂に集まることが大事です。

今後、継続的に地域づくり活動を進めていくために、指定管理者制度を利用したり、国や県を相手にビジネスを展開したりして、有償の事務局員がいる協議会を目指して欲しいと思います。そこに行けば必ずまち協の誰かに合えるという「たまり場」的な常設型事務局があれば、地域資源を活かすことができます。また、意識して若者や女性の意見を取り込む工夫をしてほしいと思います。

最後に、みなさまには、これまでの地域づくり活動に自信を持って、今回のような情報交換会を足がかりに活動をステップアップしていただきたい。

昨年11月29日(土)、あかね文化ホール・蒲生公民館で『東近江市内まちづくり協議会交流会』が開催されました。

この協議会の活動は、市民と行政の協働により、地域課題の解決や地域の独自性を活かしたまちづくりを進めようとするものです。

14地区協議会で活動している者が一堂に会し、取り組みや活動事例を情報交換することによって、今後の活動に展開すべく約160名が参加しました。

交流会では、帝塚山大学の中川幾郎教授の講演や2地区の事例発表、その後テーマ別に分かれ意見交換を行いました。

市辺地区からも8名が環境・歴史文化・イベント・防災など7つのグループに参加し、他地区とも情報が交換できて、今後のまち協活動につなげていきます。



▲ 市辺まち協 パネル展示の様子

## 参加者の感想

### ●地域交流グループに参加して

市辺コミセン館長 平尾 弥一

東近江市のまちづくり協議会活動は、総じて旧市内は活動が弱く、旧町（五個荘、愛東、能登川、蒲生等）が活発に活動しているように見受けられる。旧市内は一部地域を除いて自治会の組織率が悪く、これがまち協の活動を弱めている一因にもなっている。旧町では（まち協）委員会活動が活発で、その要因は若者が委員として活躍しているためと思われる。若者は消防団活動が核になって年々委員が増加しているとの報告もあった。

### ●防災グループに参加して

まち協防災副会長 高頭 勇次

中越地震と中越沖地震を体験した実兄は少しの揺れでも今も恐怖を感じると話してくれた。今回の中川先生の講演で「阪神淡路大震災で本当に助けてくれたのは隣の人達…」の話が強く心に残った。防災グループ交流会では、多くの地区が自治会組織の活動が活発なだけに「まち協」としての役割の明確化が各地区共通の今後の課題と感じた。災害は、人間が決めた地区地域の境界線に関係なく広範囲に被害をもたらすもの。いざという時のために、地区内交流を更に密に、そして今回、企画された広範囲の地域間交流を活発にしていく「まち協」の必要性を強く感じた。

### ●歴史文化グループに参加して

まち協文化部会長 村田 利子

当地区まち協の愛称を、歴史的背景を入れた『万葉のまち市辺』に決まったことや歴史学者渡辺守先生をお迎えして「あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖ふる」等と読まれた相聞歌で有名な万葉にまつわる歴史文化講演会の報告をしました。

他地区では歴史マップを作成したり、名所旧跡を巡るウォーク等実施されていることを話されました。いずれにしても、文化については幅広く永遠の課題を多く持つ分野であり、今後も更に追及していくことと住み良いまちづくりのために努力していきたいと思いました。



# ふれあい運動会

10月5日(日) 船岡中学校グラウンド

# 文化祭

11月6(木)~9日(日) 市辺コミセン



▲ たくさん、はいれ!!

**2008年の成績**

優勝	西市辺
2位	東市辺
3位	布引合二丁目



▲ “力と健脚で勝負!” 綱引き&マラソンは、運動会の花形種目です。



▲ コミセン・サークル活動の皆さんの作品展示

# 秋まつり

11月9日(日) 勤労青少年ホーム

# 前夜祭

11月8日(土) アミティーあかね



▲ プログラムは“あかね児童合唱団”の合唱からスタート!



▲ 大人気の“綿菓子”いつも長蛇の列!



▲ 歌謡漫談ショー“二輪草”



▲ “ジュニアマナー教室”の子どもたちがお茶とお菓子で接待!



▲ “自治会”の“各種団体”バザーは例年より多い出店で大盛況!



▲ 会場は大勢お越しいただき大盛況でした。



# “生ごみの堆肥化”実験中です!

## —将来は、地区内全域への拡大をめざしています—

環境部会では、“ごみ”減量を図るため、**各家庭からでる「生ごみ」の堆肥化**に取り組んでいます。

1m角の木製コンポストを市辺コミュニティセンター隣の**JA倉庫横の空き地に木製コンポストを設置**させていただき、堆肥化を行っています。

この堆肥化は、ご近所の方のご協力を得て、家庭内で別のポリ容器に生ごみを分別していただき、コンポストまで持ち込んでいただいています。今は実験中ですが、将来的には環境の取り組みの一環として地区全体に拡大し、堆肥化の取り組みを進めていきたいと考えています。



▲ バイオ分解・発酵を促進するため、もみ殻・米ヌカ・腐葉土の基材に廃食油・水などを加え、よく混ぜて菌の住みかとなる“床”をつくります。

写真は、生ごみ堆肥化実験の流れを紹介しています。

生活の原点である地域は、お互いに習慣や事情の分かりあえる仲間同士であります。

いざという時、一番早く、また適切な行動をとれるのも地域であります。

その地域が、日頃から連携しあい、睦みあうことが、まちづくりの基本です。

住民一人ひとりが、楽しみながら知恵を寄せ合い「住みよい環境づくり」に参加し、共に幸せになれる“仕組みづくり”が特に大切であると思います。

まち協環境部会長 小西恵美子



▲ バイオ分解の“床”が整えば、生ごみを投入します。



### まち協今後の行事予定

#### ■ 市辺地区内 歩こう会

平成 21 年 3 月 15 日(日)

9 時～受付(コミセン集合)

9 時 30 分 出発 (14 時 30 分 終了)

事前申し込み要(当日参加も OK です。)

(詳しくは、後日配布のチラシをご覧ください。)

### 編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は後半から社会経済情勢が激変した年でした。今年は「丑年」、一步一步、確かな足取りで、好転に向かうことを願っています。

市辺まち協も、3年目を迎えますが、「このまちで心豊かに住み続けたい」と思えるまちづくりを形にするため“地区まちづくり計画”策定に向けた取り組みを行います。計画は地区の皆さんの様々なご意見をお聞きしながら作りあげたいと考えていますので、市辺地区の課題や将来像など皆さんの思いやご意見をお寄せください。ご意見は、紙やデータで市辺コミュニティセンター内まち協事務局までお願いします。またメールでもお寄せください。 [ichi-kyo@e-omi.ne.jp](mailto:ichi-kyo@e-omi.ne.jp) 広報部会